

第三回将来企画委員会 議事録 (2010年5月24日承認)

2009年平成21年9月7日(月) 15:50-17:00 @北大理学部6号館11会議室(6-11-08)

出席者: 宮脇律郎、大谷栄治、ゆり本尚義、鍵裕之、村上隆

欠席者: 松井、平賀、土山、橘、川上、小澤

以下の課題に関して議論した。

1. 年会のセッションのあり方について。

共催セッションの数、セッション提案について行事委員会と将来企画委員会の間の連絡を密にして、次回の年会の企画にあたることとした。セッションの数等について早めにLOCおよび行事委員会と意見交換を行うこととした。特にゆり本委員、鍵委員には、将来企画委員会委員として、行事委員会と密接に連携して助言等を行っていただくこととした。平賀、河上、橘の各委員には、第三回目の若手企画によるセッションをお願いしたい。

2. 国際対応、国際協力のあり方

①村上委員より **Elements** 購読の依頼があった。購読の可能性について議論した。**Elements** 購読は、鉱物科学のよいレビュー雑誌であり教育上も購読の意義は大きい。また、世界の中で有力な鉱物科学の学会である本学会が購読に参加することは、国際発信の意味でも意義はある。130万円程度の経費を会費を値上げせずに確保できるか具体的に検討する必要がある。具体的な検討依頼を幹事会に提案する。雑誌「岩石鉱物科学」のあり方を含めて検討する必要がある。

②対外的な交流を学会として進める必要がある。年会に海外から講演者を招聘して、特別セッションを行う、英語の特別セッションを行うなどを進めながら韓国、中国、台湾などのアジア・オセアニアとの交流を進めるべきである。学会等に余剰金を海外からの招聘に使うことも検討すべきである。魅力ある年会にする一つの試みとなる。AOGSや2010 IMAへのセッション提案を検討することも重要であるという意見が出された。国際委員会には、具体的に年会での招聘、アジア・オセアニア諸国との交流について、検討をお願いしたい。

3. 地球惑星科学連合の固体地球科学セッションへの対応:

連合の固体地球科学セッションにおいて、鉱物科学分野をアピールする必要がある。固体地球科学セッションにおいて、分野ごとのサブセッションを作ることはないので、鉱物科学分野の発言力を強化するには鉱物科学会の固体地球科学セッションへの取り組みが重要になるという意見が出された。

4. 鉱物科学の将来像: 今後の検討課題

① 国際交流に関連して、年会での招聘研究者の特別講演や英語セッションの必要性が提案された。

- ② 鉱物科学の普及のために、鉱物科学会としての教科書の執筆を検討してはどうかとの意見がだされた。その場合、教科書の編修出版委員会を立ち上げる必要がある。
- ③ シニア会員の設置と学生会員の勧誘などの詳細を議論する委員会を会員幹事のもとに設置し、そこに将来企画委員会のメンバーを加える。候補者として河上委員にお願いする。